



舟渡小だより

令和8年2月2日

令和7年度

2月号

板橋区立舟渡小学校
校長 相澤 紀夫

志村五中・舟渡小 響き合う学びのエリア

体験学習の大切さ

副校長 松川 清

先日開催されたiCS委員会に於いて来年度の教育課程における熟議がなされました。そこでは、「MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035-」の実現に向けての「体験活動の大切さ」もたくさん挙がりました。文部科学省では、以前より体験活動を推奨し、体験活動の教育的意義として、以下のように掲げています。

体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されている。つまり、思考や実践の出発点あるいは基盤として、あるいは、思考や知識を働かせ、実践して、よりよい生活を創り出していくために体験が必要であるとされている。具体的には、次のような点において効果があると考えられる。

- 1 現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上
- 2 問題発見や問題解決能力の育成
- 3 思考や理解の基盤づくり
- 4 教科等の「知」の総合化と実践化
- 5 自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得
- 6 社会性や共に生きる力の育成
- 7 豊かな人間性や価値観の形成
- 8 基礎的な体力や心身の健康の保持増進



1月24日に開催された舟っ子クラブによるもちつき大会では、児童と保護者で300名を超える参加がありました。多くの地域のボランティアにも支えられ、昔ながらの伝統行事を体験することができ、参加する親子が笑顔でもちをつく姿が印象的でした。この体験活動を通し、「1 現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上」や「6 社会性や共に生きる力の育成」につながることを地域の方々との会話から実感しました。

また、4年生の高齢者体験では、「ケアポート板橋」を中心に地域の方々の協力を得て充実した体験活動をさせていただきました。教科書だけでは学べない多くのことを実体験を通して学び、支え合う社会の必要性について振り返る児童の姿からは「4 教科等の「知」の総合化と実践化」がなされたことが分かりました。

2月にも、2年生は「公共施設探検」、3年生は「板橋区郷土資料館見学」、4年生は「浅草見学」、5年生は「防災倉庫見学」と様々な体験学習が予定されています。ただ、体験、見学するのではなく文部科学省が掲げる8つの効果に結び付けていけるよう事前の学習と事後の振り返り活動もしっかりと計画し実践していきます。

今後も引き続き、本校の教育活動にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

